

廿九金を託
張ハヨシク義
まつけくませ
てや應るの爲
さうのまづけハ
こゝろきこえ
と云張ともい
アリ

或鷹鳥書、鷹
の鈴をばさせつけ
と云々と云ひよ
ちづせよと云へ
又呼鷹鳥法を云
して鷹鳥在高呼
之曰置落又平
地或隔河谷呼
之曰呼渡也

切くそれはさういふ事をしつゝはよとやしてそなたを鴨の本といふ
 物よ本なるはわづは是はさういふ事をしつゝは一つの法と云はる古
 写本の語ある鴨の本と云ふあるといふといふといふ本と云ふ
 ぬらうぬらういふと云ふ

さのこはと鷹とさとうてう人のこを物よあるやれ珍を

鷹の如く鈴の如くおめハ鈴のおとを必さのそれハせう

そと思ひくやうく鷹城と云ふく
 理をなや較入犬の

鈴毒花あると花を移す如く鳴とある古寫本初句との

あといふは

ちひの尾さきわさる山ま川よあおとろろゆるるるやゆらん